

第66回 回瀾書展

▶平成30年1月20日(土)～26日(金)

20日(土) 作品解説 午後1時より
21日(日) 席上揮毫 午後1時より
ワークショップ 午前10時より12時
午後2時30分より午後4時30分

入場時間 午前9時30分～午後5時(午後5時30分閉会)
最終日26日(金)は午後2時30分まで(午後3時閉会)

▶上野公園・東京都美術館 TEL 03(3823)6921
ロビー階 第4展示室

【入場無料】 ご高覧いただきたくご案内申し上げます。

(ご芳志は辞退申し上げます)

	20日(土)	21日(日)	22日(月)	23日(火)	24日(水)	25日(木)	26日(金)
午前							
午後							

主催 回瀾書道会

〒299-5243 千葉県勝浦市鵜原826 川嶋方
TEL 0470(76)0952

○の時間帯 会場にあります。

「^{かいらん}回瀾書道会とは」

1. 創立について

命名は漢学者、土屋竹雨。

出典は、韓愈の進学解の「廻狂瀾於既倒」（狂瀾を既倒に廻す）による。

「衰えて滅びかけているものをもとに戻す」の意味から「回瀾書道会」となる。

2. 創立の理念

本会は清眞にして新鮮、時代にふさわしい書道の興隆とその普及を図り、文化の建設に寄与することを目的とする。

3. 沿革

書作院が回瀾系（伝統派）と独立系（現代派、手島右卿・徳野大空ら）に分裂。回瀾系は名誉会長を鈴木翠軒、会長に平尾孤往、副会長には津金雀仙が就任し、主たる創立同人としては赤羽雲庭、大久保翠洞、木村知石、國井誠海、近藤攝南、田中海庵、中台青陵、深沢青蓼、安井壽泉が参加。

昭和27年9月23日に発会式を挙行、「回瀾書道会」として創設される。

4. 歴代会長

平尾孤往（昭和27年～昭和35年） 津金雀仙（昭和35年～昭和35年） 宇野哲人（昭和36年～昭和41年）
中台青陵（昭和42年～昭和62年） 水野精一（昭和63年～平成16年） 小林孤秋（平成16年～平成25年）
坂口天月（平成25年～）

平成30年度の行事予定

1月20日(土)～1月26日(金) 第66回 回瀾書展（東京都美術館）
4月30日(月・祝) 研修会（東京都美術館スタジオ）
5月8日(火)～5月13日(日) 第32回 回瀾同人選抜展（東京銀座画廊・美術館8階）
10月 視察研修会【古美術品の鑑賞】

《平成29年の活動紹介》



第65回 回瀾書展
作品解説



―― 中台青陵・特陳展示
六曲一双(前赤壁賦)



春の研修会（午前）講習会
清秘蔵 早川忠文氏(筆と紙の話)



―― (午後)実技講習
(行書を学ぶ)



第16回 青祥会書展・中台青陵遺墨展



講演会「昭和書壇と中台青陵」
美術評論家 田宮文平氏



秋の研修会
東博「運慶展」・書道博物館見学

本会はホームページからもご覧いただけます。⇒ kairankai.com

本日は、ご高覧頂き有難うございました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



第六十六回 回瀾書展入賞入選目録

青陵賞 伊藤泰子 高見如秀

回瀾大賞 杉浦初子

同人優秀賞 水野靖子

同人奨励賞 加藤専谷 佐藤龍水 関根征園 高橋螢 邦
藤田由起 前田通委 和田春蘭

一般漢字部

推薦 該当者なし

特選 大川原瑞妃 毛利美寿々 紺井征弦 古館征賢
塩崎桜阜

褒状 高梨澄代 関田七洋 森田征蝶 中村水蕙
和田範子

佳作 山口雅代 片根厚信 大河内瑞子 小島梅芳
青木淳子 山根厚子 佐久間藤子 中村水耀

入選 小林玲子 白石岩幸芳 福原悦子 阿部麗子

村社明豊 竹内征紅 佐伯清風 杉山一雄
大井葉洞 高橋庸子 鈴木雅子 須藤君枝

宮田恭子 村上伯堂 佐々木敬一 三角水渚
青木京子 三井佳子 権藤俊一

成瀬京子

一般かな部・自由部

推薦 該当者なし

特選 大戸洋子 飯田淳子 久保陽太 徳榊崇子

褒状 光野順 大戸朋之 中野真実

佳作 岩渕典子 後藤弘美

高校半切部

審査員 柴垣佑衣 永田綾 押本真紀 黒川華淡
奨励賞 岩田瑞菜 谷英里紗 笹子美桜

特別賞 小藤田幸

入選 永井愛未 田中文 高松歩海 富永真世